

太平洋文明圏時代において世界万民を導く灯火となれ

「アジア・太平洋 YSP 創設大会」に日本の青年・学生が参加

6月13日、真のお母様をお迎えしてタイ・バンコク市内のコンベンションセンターで「アジア・太平洋 世界平和青年学生連合 (YSP) 創設大会」が開催され、35カ国から約1万2000人の青年・学生が参加しました。純潔運動による「社会問題の解決と健康な社会づくり」をテーマに掲げ、天宙平和連合 (UPF) やタイ教育省などが共催した同大会には、日本からも青年・学生26人が参加。学生2人がスピーチを行ったほか、歌とダンスで会場を盛り上げました。真のお母様は創設者メッセージの中で、「真の父母様によって開かれた太平洋文明圏時代に、強い潮流に乗って世界に出て行くとき、皆さんが世界万民の前に灯火であり、光であり、救世主になるのです」と激励されました。

* * *

それに先立ち、日本の「母の日」である5月14日、真のお母様をお迎えして東京都内の会場で「孝情文化フェスティバル」が盛大に開催され、その運勢の中で同17日、都内で YSP 日本創設大会が行われました。

お母様は同フェスティバルで語られたみ言の中で、「韓国、日本を中心としたアジアの国々が、太平洋文明圏の時代を開き、真の愛を中心とする心情文化革命を起こせるのです」と強調。その上で、タイを中心にアジアで1万人の青年が集まり、全世界に広がっていきたくて語られ、日本の青年・学生も彼らに同参するよう願われました。

そのみ言を受け、今回のアジア・太平洋 YSP 創設大会には、日本を代表して26人が参加。本大会に先立ち、日本の学生2人が世界平和実現に向けた具体的な取り組みについてプレゼンテーションを行いました。

植林プロジェクトについて発表したM・Mさん(22歳・男性)は、「このまま森林の乱伐が進めば、空気中の二酸化炭素が増えてさらに地球温暖化が進み、南極の氷が解け、砂漠化も拡大していくでしょう。この地球規模の問題を解決できるのが、植林プロジェクトなのです」と強調。その上で、通常の樹木よりも20倍も二酸化炭素を吸収する「モリंगा」の植林プロジェクトへの参加を呼び掛けながら、「私たち若者が世界の環境問題を解決する主人となりましょう」と訴えました。



①記念の銅鑼を打ち鳴らされた真のお母様とタイのプラジン副首相 ②歌とダンスで大会を盛り上げた日本の青年・学生 プレゼンテーションを行う日本の学生 ④「無条件」の歌とダンスを行う日本とタイの青年・学生



「国際ハイウェイ・プロジェクト」について発表したY・Hさん(21歳・男性)は、「文鮮明師は『平和は道路から始まる』と語られました。もし多くの国々が高速道路やトンネルで結ばれるならば、それぞれの文化や経済へのアクセスが可能となって相互理解が進み、宗教の壁がなくなり、闘争もなくなっていくでしょう。こうした文化的革命が世界を一つにしていくのです」と説明。プロジェクトの一端として、大学キャンパスで日韓トンネル・プロジェクトの周知活動を繰り返していることを紹介した上で、「私たちの夢は、トンネルを通して平和をつくることです。他の人が想像できない夢、アジアの深刻な問題を解決する夢、悲しみや恐れのない平和な世界を実現する夢を掲げ、この世界をより良い世界にしていきたいと思います」と呼び掛けました。

日本の青年・学生メンバーは、YSP 創設大会ではタイの二世圏メンバーと心一つにして「無条

件」の歌とダンスを披露。そのほか、タイで15日に行われた「大勝利祝勝会」、同じく韓国・天正宮博物館で行われた「YSP アジア太平洋創設大会勝利特別集会」の都合3回、真のお母様に全身全霊のパフォーマンスを捧げながら、一人ひとりがお母様と深い心情の絆を結んでいきました。

一方、竹内啓晃青年学生局長は、「勝利特別集会」で日本の指導者を代表して所感を述べ、「このたび韓国、日本、米国、アジア圏の青年指導者が一堂に会しました。お母様は、トップガンを中心に未来を担う世代を育成してくださっています。私たちはその中で、環太平洋時代を開いて心情文化革命を成すことができ、孝情と真の愛をもってために生きる、若者の潮流をつくっていきます。真の父母様が地上にいらっしゃる間に必ず成し遂げます」と力強く宣言しました。

【日本の青年・学生の感想】

■タイ大会だけではなく、天正宮博物館の祝勝会まで呼んで下さったのは、真のお母様が実質的な天一国を築くために、日本の二世圏たちを愛して立てて下さり、共に歩もうとされているがゆえであると悟りました。だからこそ、私達は真の父母様の子供として誇れる姿を内外に示したいと思い、勝利して真の父母様を心から慰労して差し上げたいと思いました。祝勝会で真の父母様の前で歌い、「無条件」を踊ったときにお母様の笑顔が見えました。真の父母様がいつも笑顔で安心して過ごされる平和な世界、天一国を築いていきたいです。(S・T、33歳男性)

■真のお母様が直接タイを訪問され、そしてその大会に日本人メンバーを呼んで下さり、お母様のどこまでも深い愛と我々青年に対する大きな期待を感じました。また、実体のお母様に初めてお会いして涙するタイの二世達を見て、私達は全員、真の父母様を中心とした兄弟姉妹なのだ実感しました。私たちは真の父母様を中心とした一つの家族です。神様の夢、真の父母様の夢、私達の夢である、人類一家族を実現させるために、一人ひとりが与えられた責任分担を成し、み旨を前進させてまいります。(I・M、19歳女性)

韓国・清平で「1～301代先祖祝福式・1世未婚者霊人祝福式」

全世界から過去最多の1万9千人が参加



6月18日午前、韓国・清平の清心平和ワールドセンターで「1～301代先祖祝福式及び1世未婚者霊人祝福式」が挙行政され、世界各国から先祖祝福式が始まって以来最多となる約1万9千人が集まり、恩恵深い式典となりました。

祝福式は、柳慶錫・世界平和統一家庭連合韓国会長夫妻の主礼で挙行政。聖燭点火、祝福を受ける霊人の入場に続き、李基誠・天宙清平修練苑長が報告祈禱を行い、「きょう祝福を受ける美しい未婚の新郎・新婦たちは、地上生活をする間、拒むことのできない宿命的な蕩滅復帰摂理の重荷を背負い、ある者は乳飲み子で、ある者は青少年の時期に、ある者は美しい善男善女の姿で、家庭と氏族と民族と国家のための蕩滅の祭物となり、あるいは悪神の業による不幸な事件で霊界に行き、悲しみと嘆きの中で暮らし、真の父母様の勝利圏の基盤の上に清平役事とおして解怨され、ついにきょうの祝福の日を迎えました」と強調しました。

続いて、柳慶錫・韓国会長が主礼の辞で、「きょう出発する1世未婚者霊人祝福家庭と、今まで祝福を受けた私たちの先祖の祝福家庭が、地上にいる私たち子孫を通じて実体地上世界を主管し、天の驚くべき天運の恵みがつむじ風のように巻き起こり、VISION2020を必ず勝利する私たち統一家とならなければなりません。このよ

うな貴い恩恵の中で出発するこの驚くべき祝福式、これから地上世界の祝福家庭と霊界の祝福家庭が、天の父母様と真の父母様の心情を中心として、新しい時代を開いていく出発の日となることを切に希望します」と語りました。

引き続き、聖酒式、聖水式、成婚問答、祝禱、記念品交換、成婚宣布などの後、主礼による億万歳三唱が行われ、祝福式は限りない喜びと感動の中で幕を閉じました。

かつては1世未婚者の霊人は特別解怨後にも祝福の方法がありませんでしたが、2003年の「愛勝日」敬拝式において、真の父母様が「直系先祖の解怨をしながら、兄弟のうちで1世未婚者、傍系の未婚者の解怨式をする場合、その未婚者の霊人祝福式を別に行ってあげなさい」と語られ、2016年4月には真のお母様が「未婚者霊人祝福式を3年ごとに行いなさい」と指示されました。これらのみ言に基づき、「1世未婚者霊人祝福式」の道が開かれたのです。

「1世未婚者霊人祝福式」に参加した日本食口から数多くの恩恵の証しが寄せられています。その一部を紹介します。

幼くして亡くした我が子を祝福

東大阪教区 N・Nさん

(3億6千万既成家庭、60代女性)

未婚霊人6人を特別解怨してから、毎日声をかけ、祈り、日々成長を感じていました。40日を過ぎた頃から、私に「お母さん、お母さん」と話しかけてくれました。

そして今日はどんな顔をしているのだろうと想像したら、白いタキシードやウエディングドレスで、凛々しく美しく入場し、決意した顔で、喜んだ顔で退場して、氏族復帰を協助すると言ってくれました。何度もそばにいるのを実感しました。生まれて1カ月も経たなかった子供を祝福してくださるなんて、メシヤしかおられません。氏族復帰に邁進し、真の父母様を証ししていきたいと思っています。

腹違いの兄を祝福して感動の涙を流す

南東京教区 S・Oさん (3万家庭、60代女性)

兄と私は異母兄妹です。私と私の母をいじめてばかりいたので、私は兄がずっと嫌いでした。

入籍21日修練会に参加したとき、最後の役事をしていくときに兄の母が出て来て、私に頭を下げるのです。「どうぞ息子(私の兄)のことをお願いします」と。私自身の両親は解怨祝福をやっていましたが、兄の母の事は全く考えも及ばず、私は思わず「あなたのことを忘れていてすみませんでした」と話し、2002年2月に特別解怨しました。

そして月日は経ち、生涯独身でいた兄も他界してしまい、14年1月に特別解怨、そして今回の未婚者霊人祝福となりました。

今回の祝福では涙がはらはらと流れ、ずっと憎んでいた兄への思いが、本当の兄妹の思いへと変わっていきました。兄の母と兄が本当に喜んでいを感じる以上に、この祝福によって私の中の恨みが心から解けた思い

です。恨みが解けたとき、私の心に天国が来た思いです。このような道を開いてくださった真の父母様に感謝申し上げます。

25年前に霊界に行った弟の声

北海道教区 C・Aさん (6500家庭、50代女性)

今回は、がん宣告されてからあつという間に24歳で霊界に行ってしまった弟の未婚者霊人祝福を受けるため参加しました。病気のことを母から聞かされ、あわててお見舞いに行ったときには、体が大変で入会願書を書いてもらえず、真の父母様の写真を見せるだけで終わり、地上での伝道は叶いませんでした。

あれから25年、ようやく伝道をする事ができました。しかもこれほど素晴らしい祝福の恩恵を受ける事ができて本当に感謝です。

成婚問答のときに背後から「イエー」と力強い男性の音が聞こえました。弟が喜んでおり、「よし、これから頑張るぞ」というような気迫を感じました。姉として最高の贈り物をしてあげることができましたし、共に神氏族メシヤ活動をしていきたいと思いました。

「結婚したい」と訴えてきた霊人を祝福

東埼玉教区 S・Mさん (祝福二世、10代女性)

西南戦争の時に亡くなったおじさんを祝福しました。20代で亡くなってしまい、(還元祈願礼式の時)母に「結婚したい」と言ってきたそうです。母はその希望を叶えるべく準備しました。

1世未婚者霊人祝福式の当日、どこからか「さびしい」という感情が伝わってきました。それが祝福式後には「これでもうさびしくない。ありがとう」という平安に包まれました。未婚のまま亡くなってしまおうと、霊界でも孤独なのだ改めて思いました。おじさんには幸せな結婚生活を送ってほしいです。



①「祝福式」に臨む参列者 ②成婚宣布を行う柳慶錫・韓国会長夫妻 ③聖酒式 ④「祝福式」の参列者 ⑤先祖解怨式で讃美役事 ⑥先祖解怨式で億万歳を行う参加者 ⑦受付を行う参加者 ⑧受付を待つ参加者で溢れた修練苑



母の国・日本の教会は世界の模範に

「全国会計会議」開催



① 宋総会長を中心に記念撮影 ② 講話を行う宋総会長 ③ メッセージを語る李総会長夫人 ④ 宋総会長の講話に耳を傾ける参加者

6月21～22日、宮崎台国際研修センター（川崎市）で「全国会計会議」が行われ、全国の地区・教区・教会から会計責任者およそ280人が参加し、天からの慰労と恩恵を受けるひと時を過ごしました。

会議の冒頭、宋龍天・全国祝福家庭総連合会総会長が講話を行い、「真のお母様は、日本の会計責任者が世界のために貢献することを願っておられます。特に二世圏に会計の専門家がいるならば、彼らを育て、アジアやアフリカ、南米など世界各地の教会で会計システムを整備する支援をしてほしいと願っておられます」と述べました。

その上で、宋総会長は「お母様は、日本の会計責任者たちがどの国よりも天が願われる方向に合わせ、誠実に責任を果たしていることをご存知です。皆さんの基準をお母様は本当に喜ばれ、『韓国も日本がやっていることを勉強しなければならない。日本を模範にして全世界が付いて行くように』と語られたこともあります。この場を通して、母の国の使命的責任を担い、会計に責任をもってきた皆さんのこれまでの犠牲と献身に対し、天の父母様・真の父母様に代わって心から感謝を捧げます」と語りました。

昼食後は、李海玉総会長夫人が駆け付けて講話を行い、「会計の責任者は人間の体で例えるならば血液です。健康な体が清い血液からつくられるように、健全な教会をつくるためには会計責任者の役割がとて重要で」と強調。また「会計は寂しい立場です。お互いに連絡を取り、慰労し合ってください。元気の秘訣は笑うこと。大

きく笑えば、脳が錯覚して健康になります」などと語り、参加者たちを慰労しました。

会議ではそのほか、本部関係者による報告や会計の専門家を招いた勉強会などが行われ、実務的な面での疎通と共有を行いました。

会議は、最後に徳野英治会長が真のお母様の切実なご心情を証しするメッセージを贈り、全体の日程を終了しました。

【参加者の感想】

■ 宋総会長が「(水のように) 絶対精誠は99℃では沸騰しないが100℃で沸騰する」と語られていましたが、霊界が協助せざるを得ないほどの絶対精誠を捧げ、真のお母様と一体となっていけば、天の父母様の夢は必ず成されると確信しました。(第2地区 M・Mさん)

■ 会計という立場で日々大変なこともありますが、全てを天がご存知であるということに慰められた気がします。「透明性」という言葉が多く言われていましたが、どこから誰から見られても恥ずかしくない私たちにしなければならないと思いました。(第11地区 K・Fさん)

■ いつも会計担当者の心情に寄り添って下さる李海玉総会長夫人が、お元気な姿を見せて下さり、お母様に直接侍ることのできない私たちにお母様の香りを届けて下さいました。実務に明け暮れる者にとって、心情の世界を深め、清められたような気がします。(第4地区 K・Sさん)

岡山教区が全国に先駆けて5000名礼拝

世界平和祈願し、自叙伝心の書写大会



① 会場を埋め尽くす参加者 ② 講演を行う徳野会長 ③ 浅川先生 ④ 青木教区長
⑤ 書写の証しを行う男子高校生 ⑥ 盛り上がるグランドフィナーレ

6月25日、岡山教区は岡山市内の会場で「世界平和祈願 幸せを呼ぶ自叙伝心の書写 2017 岡山合同天運相続 5000 名礼拝」を大盛況の中で行いました。救国救世基盤造成のためのステップとして、教区レベルでは全国初めて5000名規模で行った今回の書写礼拝。岡山の勝利が全国の勝利につながり、VISION2020の勝利につながるの確信のもと、岡山教区の全メンバーが丸となって実現させました。

当日は、地元議員19人を含む多数の来賓が参加。また、10人以上を動員した人が73人、21人以上を動員した人が15人、43人以上を動員した人が3人いるなど、会場受付は波が押し寄せてくるようにものすごい人数の参加者で溢れかえりました。

礼拝は、オープニングで迫力ある太鼓の演奏で会場が盛り上がった後、家族書写会の映像が上映され、書写会が各家庭に定着しつつあることを紹介。代表報告祈禱に続いて、平和運動紹介の映像が上映され、真の父母様の世界的な業績に参加者たちは感動していました。

書写の証しでは、総社家庭教会の祝福二世の高校1年生が「家族で書写をしていくなかで家族の絆、社会の平和を強く意識するようになりました。最初は面倒くさかったのですが、書写をしていくうちに心がすっきりし、

『今日も1日、頑張ろう』という気力が湧いてくるようになり、改めて書写の素晴らしさを感じました」と語りました。

また、青木大岡山教区長による主催者挨拶の後、浅川勇男先生が書写の意義と素晴らしさを訴えました。

引き続き、徳野英治会長が講演を行い、今の日本の社会情勢や世界の現状などに触れた上で、「幸せの土台は家庭であり、家族の絆を深めるのが愛です。愛こそが幸せの根本です」と力強く語り、多くの参加者の深い感銘を受けていました。

その後は書写実践、瞑想、記念撮影、大抽選会と続き、グランドフィナーレでは、女子高生歌手のデュオなどが感動的な歌を披露。最後は青年のダンスチームも加わり、会場の盛り上がり最高潮に達するなかで閉会しました。

参加した議員は「世界平和のために5000人が集まって祈願するのは大変素晴らしい事です。世界が様々な危機的状況の中、世界平和活動のためにこれだけ多くの運動をしておられる事も驚きと共に感動します。徳野会長の講演も唆暖に富む素晴らしい内容でした。また勉強させて頂きます」と感想を述べていました。

真の父母様の環境圏を守るため、 生涯を捧げることを決意

第四期天一国青年宣教師帰国報告修練会 & VISION2020 出発式



①修了証を受け取った宣教師たち ②「出発式」でメッセージを語る田中副会長 ③ディスカッションを行う宣教師 ④講義を聴く宣教師 ⑤和動会の一場面（16年8月、コスタリカ）⑥和動会で踊る宣教師 ⑦現地の食口とソーラン節の衣装を着てポーズ（2016年10月、ベナン）⑧折り紙を通じて現地の人々と交流（16年8月、コスタリカ）⑨祝福を受けたカトリックの神父と（16年6月、フィリピン）

6月13日～17日、宮崎台国際研修センター（川崎市）において、42人の帰国宣教師を迎え、「第四期天一国青年宣教師帰国報告修練会 & VISION2020 出発式」が行われました。宣教師たちは5日間にわたって、宣教活動の振り返りや恩恵交換、日本での再出発の準備を行いました。参加者の中には1年の歩みを終え全日程に参加したメンバーと、任期を継続して2年目を歩むために1年間の総括を行う前半部だけに参加したメンバーがいました。

第四期天一国青年宣教師は昨年5月に韓国・清平の天正宮博物館に招請され、真の父母様との特別な時間を共有して海外宣教へと出発した恵まれたグループです。真のお母様から「皆さんがいる限り、真の父母様の環境圏は健在です」との貴重なみ言を受け世界に旅立ち、このほど任期を終えて帰国しました。

修練会初日の13日は、ちょうどタイ・バンコクでアジア・太平洋世界平和青年学生連合の創設大会が行われ、宣教師たちはネット中継を通して恩恵を共有。様々な

レゼンテーションやエンターテイメントを見て刺激を受け、真のお母様の最新のみ言を受ける機会となりました。

その後、宣教活動に関して報告をする時間を持ち、13カ国の報告を全体で共有。人も環境も伝道基盤も全く異なる任地国について互いに学び合いながら、宣教師たちは「世界は広い」と改めて実感しました。

2日目は、任地国でいかに持続的に伝道教育を進めるかについてディスカッションを行い、飯田智史国際宣教師部長から宣教の総括を聞く時間を持ちました。どの国においても教育者の不足や教育システムの不備、伝道教育を支える財務基盤の脆弱さなど多くの問題を抱えていることが分かりました。

3日目は証し会が行われ、宣教師14人が代表して証しを行いました。異国での苦労や伝道を勝利するための精誠、アベル・カイン関係で勝利した証しなど、一人ひとりが神様から与えられたその人にしか分からない貴重な体験を共有しました。田中富広副会長が全員の証しを聞いた後、宣教師たちが海外にいる間に進行してきた日



本の摂理を中心にメッセージを語り、最後に修了証授与式が行われました。

4日目は、竹内啓晃青年学生局長や今井康勝成和青年部長、佐野忠國成和大学生部長など青年学生圏の責任者が日本の歩みを中心に講話。今後日本で歩むための連結の時間となりました。また、入山聖基・本部伝道教育部長の伝道の講話を通して、宣教師たちは改めて伝道に関して学ぶと同時に伝道40日路程に向けて準備を行いました。

最終日の5日目は、宣教師OBが帰国後の歩みについて証しを行いました。その後、国内伝道40日路程の任地が発表。出発式に再び田中副会長を迎え、「信仰基台」「実体基台」「サタン分立」に関するメッセージを受け、日本での再出発を決意しました。

宣教師たちは国内伝道40日路程（6月18日～7月27日）に出発。現在は全員最低3人の受講決定を決意し、首都圏を中心とした9つの教会で歩んでいます。

【参加した宣教師の感想】

■5日間の帰国修練会は1日1日の内容が濃く、多くの方々が来られて講話して下さい、様々な証しを聴いて感動しました。また、お母様の報告を聴くだけでお母様に近くに感じ、中心者の方々から意識されていることを通して、お母様もまた注目して下さい、強く感じました。神様と父母様がいつも私と共におられ、私たちを見て希望に感じておられることをより実感しました。（T・K）

■宣教期間を整理することができ、非常に意義深い修練会だったと感じています。これから様々な場で天一国青年宣教師という看板を背負う立場にあることを理解しました。私にとってこの宣教期間は本当に人生の宝となりました。これから宣教師として生き、御父母様が解散の号令をかけられる時まで歩み続ける覚悟は固まっています。今の私にはこの上ない喜びです。（D・I）

■今は、真のお母様の願い、心情、事情を知り、そこに絶対相対して歩むべき時なのだと思えました。お母様が天一国青年宣教師として召命して下さった誇りは、一生涯なくなりません。真のお父様の聖和以降、お母様の決意から出発したこの宣教によって、私は再び生かされました。お母様が私たち二世圏に対して大きな願いと期待をかけて下さり、本当に愛しておられることを知りました。（M・W）

■タイの大会では、真の父母として人類の親として全ての人々を抱こうとされる深い愛を感じました。日本の青年・学生に期待と希望を掛けられていることも感じました。不思議だったのが、自分が遠い地球の裏側で心情復帰してきたことが、今の日本や世界の摂理とも直結していることでした。（K・O）

第1地区で「第25回夏の大讃美・原理大復興会」

6月20日、札幌市内のホールで「第25回夏の大讃美・原理大復興会」が開催され、新規ゲスト約150人を含むおよそ1000人が参加しました。

講演を行った南米パラグアイのレダ基地の中田実所長は、真の父母様が1日200カ所も蚊に刺される環境で、将来人類が必ず直面する環境問題の解決のモデルとするためにレダ開発プロジェクトを始められたことを紹介。北海道開拓の話とだぶらせながら、

北海道の素晴らしさや将来の可能性を強調しました。そして最後に「人生には人それぞれの意味があり、夢を持つことが大切です。最後が重要であり、最後が最大にならないといけません。今日から人生をリセットして再スタートしましょう」と呼び掛けました。

講演後は、聖歌や真の父母様を讃美する曲を演奏。霊的な雰囲気がさらに高まり、参加者は大きな恩恵を受けました。



講演を行う中田実氏



美しい歌声を披露した合唱隊

大阪同胞家庭教会が国際色豊かなフェスティバル開催

6月24日、南大阪教区大阪同胞家庭教会は「第4回グローバル・ファミリー・フェスティバル (GFF)」を大阪市内のホールで開催し、新規300人、再復帰35人、在日同胞105人を含む、総勢850人が参加しました。

このイベントは、「世界の食口が集うお祭り」というコンセプトで、在関西の総領事館等を渉外して、各国の文化を紹介してもらいながら交流し、最終的

には真の父母様を証していくことを目的にしています。今回は9カ国の関係者が参加しました。

フィナーレでは、韓半島の南北統一への祈りを込め、朝鮮総連系の歌手と韓国民団系の歌手に先導してもらいながら、出演者・来賓・会場が一体となって歌い踊り、隣同士でハグをしながら和合統一を願いました。



国際色豊かなフェスティバルの参加者



フィナーレで踊る鮮やかな民族衣装を身にまとった参加者

栃木・群馬で既成祝福式を挙行

栃木教区の「2017天地人真の父母天宙既成祝福式」が6月10日、宇都宮家庭教会礼拝堂で行われました。栃木教区では年間3回の既成祝福式を企画しており、今回は2回目となります。既成祝福6組、独身祝福21組が参加し、三代圏理想家庭を目指して祖父母を参加させたり、長年信仰を持つ婦人が長男夫婦を導いた祝福式になりました。

6月25日、群馬教区高崎家庭教会

の礼拝堂で群馬教区の「2017天地人真の父母天宙既成祝福式」が行われ、既成祝福7家庭、霊肉祝福3家庭が参加しました。



栃木教区の祝福式



聖酒式を行うカップル (群馬教区高崎家庭教会)

各地で自叙伝書写集会を開催

6月15日は宮城教区仙台家庭教会と群馬教区高崎家庭教会で、16日には福島教区会津家庭教会において書写集会が行われました。高崎家庭教会では、「書写のおかげで夫婦仲、親子仲が改善した」という証が披露されました。



高崎家庭教会で行われた書写奉納伝授式で



書写集会で講話を聴く参加者 (仙台家庭教会)



書写実践をする参加者 (会津家庭教会)

福井家庭教会の早朝聖地祈祷会が1000回を達成

2014年9月18日から続く、福井家庭教会の食口による朝5時からの早朝聖地祈祷会が、6月13日で1000日目を迎えました。

世界平和と社会基盤拡大のために始まった早朝聖地祈祷会は、大雪の日も嵐の日も、お盆やお正月も途絶えることなく、野崎禎二福井教区長を中心に孝情の祈りが捧げられてきました。

ちょうどこの日は、天正宮博物館入宮式の日とも重なり、集った約170人の食口全員に「1000回記念」の特製ボールペンをプレゼント。今後も精誠を積み重ね、2000日を迎える2020年まで祈祷会を継続する予定です。



南愛知・金山家庭教会が「ピュアラブラリー&マーチ」

天候に恵まれた6月11日、名古屋市中区の白川公園で金山家庭教会の教会員120人が集い、「ピュアラブラリー&マーチ」を行いました。子連れの若い家庭の参加者も多く、子供から青年、壮年婦人と世代を越えて一つになることができました。

